© 日本パーソナリティ心理学会 2017

#### DOI: http://doi.org/10.2132/personality.26.1.2

# 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成<sup>1)</sup>

下 司 忠 大 小 塩 真 司 早稲田大学大学院文学研究科 早稲田大学文学学術院

マキャベリアニズム,自己愛傾向,サイコパシー傾向の3特性は社会的に嫌われやすい特性であることから "Dark Triad" と 総称 される。海外では少数項目の Dark Triad 尺度として Dark Triad Dirty Dozen (DTDD) と Short Dark Triad (SD3) が作成されているが,DTDDは日本語版 (DTDD-J) が作成されているものの,SD3は日本語版が作成されていない。本研究の目的は日本語版 SD3 (SD3-J) を作成し,その信頼性・妥当性を検討することであった。確認的因子分析の結果,SD3-J は階層因子構造を有していることが示された。また,SD3-Jの  $\alpha$  係数はおおむね十分な値を示した。SD3-J と既存の尺度との単相関分析,偏相関分析の結果から SD3-J の併存的・弁別的妥当性,増分妥当性が確認された。これにより SD3-J が国内において使用に耐えうる Dark Triad 尺度であることが示された。

キーワード: Dark Triad. マキャベリアニズム, 自己愛傾向, サイコパシー傾向, Short Dark Triad

# 問題と目的

マキャベリアニズム,自己愛傾向,サイコパシー傾向の3特性は社会的に嫌われやすい特性 (socially aversive traits)として代表的な3特性であり,"Dark Triad"と総称される (Paulhus & Williams, 2002)。 Dark Triad は非生産的な職場行動や教育場面における問題行動,短期的な恋愛関係志向,反社会的行動などと関連し,社会的に重要な影響をもたらす特性群であることが示されている (Furnham, Richards, & Paulhus, 2013)。本研究は Dark Triadを少数項目で測定することのできる Short Dark Triad (Jones & Paulhus, 2014)の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性を検討するものである。

#### Dark Triad の各概念の特徴

マキャベリアニズムは、非道徳性、他者操作性、冷笑的世界観を特徴とする特性である (Christie & Geis, 1970)。また、自己愛傾向は優越感、自己満足、権力、虚栄、自己顕示、特権意識、搾取性を特徴とする特性である (Raskin & Terry, 1988)。そして、サイコパシー傾向は、浅薄な情動、共感性や罪悪感・良心の呵責の欠如、無責任さ、衝動性、拙い計画性・意思決定を特徴とする特性である (Kiehl & Hoffman, 2011)。

Dark Triad は相互に正の相関関係にあることが繰り返し報告されている(Furnham et al., 2013)。近年のメタ分析によると、マキャベリアニズムー自己愛傾向間でr=.30、マキャベリアニズムーサイコパシー傾向間でr=.59,自己愛傾向—サイコパシー傾向間でr=.51の相関が示されている(O'Boyle, Forsyth, Banks, & McDaniel, 2012)。これらの関連性は Dark Triad の 3 特性に互いに共通する基盤 (e.g., 冷淡さ、他者操作性、非協調性、非正直さ—非謙虚さ)があることを示唆するもの

<sup>1)</sup> 本論文は、2015年度に早稲田大学大学院文学研究科 へ提出した修士論文の一部を再分析し、加筆・修正 をしたものです。本論文の論文審査に際して有益な ご指摘およびご示唆をいただきました査読者の先生 方に深く御礼申し上げます。

である (Book, Visser, & Volk, 2015)。

Dark Triad はそれぞれ独自の特徴を有すること も示唆されている。例えば、Dark Triadと衝動性 との関連では、マキャベリアニズムは無相関か負 の相関が示されているが、サイコパシー傾向およ び自己愛傾向は正の相関が示されている(Jones & Paulhus, 2011a)。また、その正の相関は自己愛 傾向よりもサイコパシー傾向の方がより高い相関 を示した (Jones & Paulhus, 2011b)。さらに、誇 大な自己を脅かされるような状況下においては. Dark Triadの中でも自己愛傾向のみが攻撃行動と の間に関連が示されている(Jones & Paulhus, 2010)。このような知見や各概念に関するレ ビューから、マキャベリアニズムは戦略性・計画 性, サイコパシー傾向は強い衝動性, 自己愛傾向 は誇大性の維持といった点で独自の特徴を有する ことが指摘されている (Jones & Paulhus, 2011b; Paulhus, 2014)

#### Dark Triad の測定尺度

これまでにDark Triadの個々の特性のみを測 定する尺度は数多く作成されてきた(以降、この ような尺度を「既存の尺度」と呼称する)。しかし、 Dark Triadの3特性を測定するうえで、既存の尺 度の項目数が多いことが問題として残されていた (Jonason & Webster, 2010)。このような背景か ら,少数項目でDark Triadを測定できる尺度とし て近年, Dark Triad Dirty Dozen (DTDD: Jonason & Webster, 2010) が開発されている。DTDD は各 次元4項目、合計12項目で構成される尺度であ り、信頼性・妥当性が確認されている尺度である (Jonason & Webster, 2010)。ただし、DTDD に は妥当性の面でいくつかの批判がなされてきてい る。まず、DTDDのサイコパシー傾向と既存の 尺度における敵意的態度 (e.g., 誇大感, 他者操作 性) や脱抑制 (e.g., 衝動性) といった特徴との関 連が低いことが示されている(Miller et al., 2012)。また、DTDDのマキャベリアニズムと Mach-IVとの関連が、DTDDのサイコパシー傾 向とMach-IVとの関連よりも低いことから、DTDDのマキャベリアニズムの妥当性の低いことが示されている(Rauthmann, 2013)。さらに、Dark Triadにおける自己愛傾向は過敏型というよりも誇大型の自己愛を表したものであるが、DTDDの自己愛傾向は誇大型自己愛とともに過敏型自己愛も測定していることが示されている(Maples、Lamkin, & Miller, 2014)。このような問題点から、Dark Triadと他の指標との関連を検討する際にDTDDを用いると、理論的に想定される結果が得られない可能性がある(e.g., Lee et al., 2013)。

そこで、Dark Triadを十分かつ簡便に測定する うえでDTDDよりも推奨されているのが、近年開 発されたShort Dark Triad (SD3: Jones & Paulhus, 2014) である (Maples et al., 2014)。SD3 は各次 元9項目、合計27項目で構成される尺度であり、 信頼性・妥当性が確認されている(Jones & Paulhus, 2014)。SD3はDTDDよりも項目数が多 くなるものの、Dark Triad それぞれの概念範囲を 的確に捉えるように項目を収拾し、作成された尺 度である (Jones & Paulhus, 2014)。 DTDD の問 題点との比較では、まず、SD3のサイコパシー傾 向は衝動性との関連においてDTDDのサイコパ シー傾向よりも高い相関を示している (Maples et al., 2014)。また、SD3のマキャベリアニズムと Mach-IVとの相関は、SD3のサイコパシー傾向と Mach-IV との相関よりも高いことが示されてい る (Jones & Paulhus, 2014)。 さらに、SD3 は過敏 型の自己愛傾向を測定する尺度との間にほとんど 無相関を示している (Maples et al., 2014)。全体 としても、SD3はDTDDよりも対応する既存の 尺度との相関が高いことが示されている (Jones & Paulhus, 2014; Maples et al., 2014)。 このよう にSD3はDTDDの妥当性の問題点を解消した尺 度であり、Dark Triadを簡便に測定するうえで重 要な尺度である。

#### 本研究の目的

我が国においてはDTDDの日本語版(DTDD-J:

田村・小塩・田中・増井・ジョナソン、2015)が すでに作成されている一方で、SD3の日本語版尺 度はいまだ作成されていない。そこで本研究で は、日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) を作成し、 その信頼性と妥当性を検討することを目的とす る。まず、SD3-Jの項目の日本語訳を行い、その 因子構造の検討を行う。田村他(2015)と同様に、 Dark Triadの1次元的な因子を仮定する1因子モ デル、Dark Triadの3次元のそれぞれの因子とそ の因子間相関を仮定する3因子間相関モデル、一 般因子とグループ因子をそれぞれ仮定する階層因 子モデルのそれぞれを比較検討することによっ て、SD3-Jの因子構造を検討する。Dark Triad は 前述したように全体に共通する因子とそれぞれに 独自の特徴があると考えられるため、階層因子モ デルの適合度が最も高くなることが予想される。 信頼性については、信頼性係数としてα係数を算 出し検討を行う。

次に、SD3-Jの併存的妥当性・弁別的妥当性の確認をするために、SD3-J, DTDD-Jと既存の尺度との関連の検討を行う。先行研究(Jones & Paulhus, 2014)と同様に、SD3-Jの各尺度はその次元に対応する既存の尺度との間に高い正の相関を示すことが予想され、SD3-Jの各尺度とその次元に対応しない既存の尺度との相関はSD3-Jの各尺度と対応する既存の尺度との相関はSD3-Jの各尺度と対応する既存の尺度との相関よりも低くなることが予想される。

さらに、SD3-JがDTDD-Jと比較してDark Triadの各概念の特徴を十分に捉えきれているかどうかを検討するために、DTDD-Jの下位次元の1つを統制した時の、その次元におけるSD3-Jの各尺度と既存の尺度との偏相関を検討する。SD3-Jが既存の尺度との間に十分な正の偏相関を示すならば、SD3-JがDTDD-Jの得点では説明しきれていない既存の尺度の得点の分散の多くを説明していると考えられる。先行研究(Maples et al., 2014)から、SD3-Jは既存の尺度との間に高い正の偏相関を示すことが予想される。

本研究では妥当性の検討としてDark Triadの性差にも注目して検討を行う。Dark Triadのそれぞれの得点は女性よりも男性の方が高いことが複数報告されている(e.g., Jones & Paulhus, 2014)。Dark Triad はいずれも他者への共感性が低く搾取性の高い特性であり、複数の恋愛パートナーを持つ、遊び的な恋愛をするなどの行動傾向を共通して持つことが示されている(e.g., Jonason, Li, Webster, & Schmitt, 2009)。このようなDark Triadの行動傾向は、潜在的繁殖率に差がある男性と女性において、男性の方に進化的に有利に働くことからDark Triad に性差があることが考えられる(e.g., Jonason, Li, & Czarna, 2013)。したがってSD3-Jの各尺度の得点は、男性の方が女性よりも高くなることが予想される。

# 方 法

#### 分析対象者と手続き

調査対象者は大学生456名であった。以下に述べる尺度のうち、調査対象者すべてがSD3-Jに回答し、欠損項目のない436名(男性:163名、女性:273名、平均年齢19.95歳(SD=1.49))が分析対象者となった。また、調査対象者のうち370名がSD3-Jに加えてDTDD-Jにも回答し、欠損項目のない357名(男性:129名、女性:228名、平均年齢:20.12歳(SD=1.57))が分析対象者となった。さらに、調査対象者のうち190名がSD3-J、DTDD-Jに加えてMach-IV、NPI-35、LSRPにも回答し、欠損項目のない189名(男性:83名、女性:106名、平均年齢:19.76歳(SD=1.10))が分析対象者となった。

調査は講義終了後に一斉に質問紙を配布・回収することによって行われた。調査時期は2015年2月であった。本研究は倫理審査委員会の承認を得て行われた。

### 使用した尺度

日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) Jones & Paulhus (2014) によって作成された SD3 を、第1

著者が主導となり、第2著者および心理学専攻の大学院生3名の意見を参考にしつつ日本語に翻訳して用いた(Appendix 1)。訳語に関しては10~20名程度を対象とした予備調査を4回実施し、その都度著者らが表現の修正を行い訳出した。その後、日英両言語に堪能な日本人1名によるバックトランスレーションを行った。そのバックトランスレーションを行った。そのバックトランスレーションの項目内容が、原版の尺度の項目の意味内容とおおむね同等の内容であることを、原著者の1人であるDelroy L. Paulhusが確認した。項目数は全27項目であり、Dark Triadの各3次元の項目数はそれぞれ9項目である。「全くそう思わない」から「非常にそう思う」までの5件法で回答を求めた。

DTDD-J SD3-Jと比較検討するために、DTDD (Jonason & Webster, 2010) の日本語版であるDTDD-J (田村他, 2015) を用いた。DTDD-Jは田村他 (2015) によって原版と同等の信頼性・妥当性が確認された尺度である。マキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向を4項目ずつで測定するものであり、全12項目で構成される。「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」までの5件法で回答を求めた。

Mach-IV 既存のマキャベリアニズム尺度として、先行研究でSD3の妥当性検証に用いられたMach-IV (Christie & Geis, 1970)の日本語版(中村他, 2012)を用いた。日本語版Mach-IVは中村他(2012)によって信頼性と妥当性が確認された尺度であり、全20項目で構成される。「全くそう思わない」から「全くその通りだと思う」の7件法で回答を求めた。

NPI-35 既存の自己愛傾向尺度として,先行研究でSD3の妥当性検証に用いられたNPI (Raskin & Hall, 1979; Raskin & Terry, 1988)の日本語版である自己愛人格傾向尺度 (NPI-35:小西・大川・橋本,2006)を用いた。NPI-35は小西他 (2006) によって信頼性と妥当性が確認された尺度であり,注目欲求,誇大性,主導性,身体

賞賛,自己確信の5下位尺度,全35項目で構成される。「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」までの6件法で回答を求めた。

LSRP 既存のサイコパシー傾向尺度として. LSRP (Levenson, Kiehl, & Fitzpatrick, 1995) の日 本語版尺度(杉浦・佐藤、2005)を用いた。日本 語版 LSRP は杉浦・佐藤 (2005) や、大隅・金山・ 杉浦・大平(2007)によって信頼性と妥当性が確 認された尺度であり、一次性サイコパシー、二次 性サイコパシーの2つの下位尺度で構成される。 一次性サイコパシーが非共感性や罪悪感の欠如な どの内面的な問題を表し、二次性サイコパシーが 反社会性や衝動性などの外面的な問題を表したも のである(大隅他. 2007)。先行研究で用いられ た既存のサイコパシー傾向尺度はLSRPではない が、その尺度はいまだ日本語版尺度が作成されて いないため、本尺度を用いた。大隅他 (2007) に おいて除外項目となった5項目を除いた21項目で 構成される尺度を用い,「全く当てはまらない」 から「非常に当てはまる」までの4件法で回答を 求めた。また、LSRPの二次性サイコパシーに関 しては信頼性と妥当性の両面で疑問が呈されてい る (大隅他、2007)。そのため本研究ではその点 にも注意を払い、分析および考察を行う。

# 結 果

#### 確認的因子分析

SD3-Jの因子構造について検討するために、1因子モデル、3因子間相関モデル、階層因子モデルの3モデルに対して確認的因子分析を行った。推定法は最尤法を用いた。分析に際しては、修正指標と項目内容を参考にマキャベリアニズムの項目3と自己愛傾向の項目5(M3-N5)、自己愛傾向の項目1と項目3(N1-N3)、サイコパシー傾向の項目1と項目3(P1-P3)の誤差間に相関を仮定して分析を行った。なお、M3-N5は「重要な人物」、P1-P3は「報復」という同じ語句を用いた2項目のペアであり、N1-N3はどちらもグルー

Table 1 Factor loadings of confirmatory factor analysis for SD3-J

| Τ.           | $Single\text{-}Factor\ Model\ (A)$ | Correlated Three-Factor Model (B) |     |     | Bi-Factor Model (C) |     |     |     |
|--------------|------------------------------------|-----------------------------------|-----|-----|---------------------|-----|-----|-----|
| Items        |                                    | М                                 | N   | P   | D                   | M   | N   | P   |
| M1           | .08                                | .35                               |     |     | .05                 | .44 |     |     |
| M2           | .49                                | .66                               |     |     | .39                 | .52 |     |     |
| M3           | .35                                | .54                               |     |     | .31                 | .48 |     |     |
| M4           | .18                                | .38                               |     |     | .17                 | .39 |     |     |
| M5           | .25                                | .49                               |     |     | .13                 | .55 |     |     |
| M6           | .25                                | .40                               |     |     | .26                 | .30 |     |     |
| M7           | .32                                | .46                               |     |     | .31                 | .34 |     |     |
| M8           | .46                                | .56                               |     |     | .48                 | .33 |     |     |
| M9           | .29                                | .34                               |     |     | .34                 | .15 |     |     |
| N1           | .44                                |                                   | .56 |     | .25                 |     | .50 |     |
| N2           | .25                                |                                   | .42 |     | 02                  |     | .51 |     |
| N3           | .40                                |                                   | .50 |     | .26                 |     | .42 |     |
| N4           | .53                                |                                   | .73 |     | .33                 |     | .63 |     |
| N5           | .49                                |                                   | .45 |     | .33                 |     | .34 |     |
| N6           | .09                                |                                   | .23 |     | 07                  |     | .31 |     |
| N7           | .31                                |                                   | .45 |     | .14                 |     | .43 |     |
| N8           | .34                                |                                   | .48 |     | .09                 |     | .51 |     |
| N9           | .51                                |                                   | .67 |     | .31                 |     | .59 |     |
| P1           | .36                                |                                   |     | .40 | .40                 |     |     | .11 |
| P2           | .17                                |                                   |     | .21 | 07                  |     |     | .91 |
| P3           | .31                                |                                   |     | .40 | .40                 |     |     | .04 |
| P4           | .49                                |                                   |     | .61 | .53                 |     |     | .28 |
| P5           | .34                                |                                   |     | .44 | .44                 |     |     | .14 |
| P6           | .49                                |                                   |     | .56 | .53                 |     |     | .13 |
| P7           | 03                                 |                                   |     | 02  | 09                  |     |     | .24 |
| P8           | .36                                |                                   |     | .39 | .34                 |     |     | .19 |
| P9           | .50                                |                                   |     | .59 | .54                 |     |     | .18 |
| rrelation co | pefficients between errors         |                                   |     |     |                     |     |     |     |
| M3-N5        | .25                                |                                   | .33 |     |                     | .3  | 32  |     |
| N1-N3        | .36                                |                                   | .27 |     |                     | .2  | 28  |     |
| P1-P3        | .23                                |                                   | .18 |     |                     | .1  | 7   |     |
| ctor correla | tion coefficients                  |                                   | N   | P   |                     |     |     |     |
|              |                                    | M                                 | .20 | .48 |                     |     |     |     |
|              |                                    | N                                 |     | .48 |                     |     |     |     |

Note. D=Common core of the Dark Triad; M=Machiavellianism; N=Narcissism; P=Psychopathy.

プを主導する人物として優れているかどうかを表 す項目であるため、これらの誤差間に相関を仮定 することは理論的に妥当であると判断された。そ の分析結果をTable 1に示す。適合度は1因子モ  $\vec{\tau}$  N (Table 1-A):  $\chi^2 = 1393.45$  (df = 321, p = .000), RMSEA=.09, CFI=.50, SRMR=.09, AIC=

32830.05, BIC=33172.58, 3 因子間相関モデル (Table 1-B):  $\chi^2 = 840.02$  (df=318, p=.000), RMSEA=.06, CFI=.76, SRMR=.07, AIC= 32282.62, BIC=32637.37, 階層因子モデル (Table 1-C):  $\chi^2 = 703.57$  (*df*=294, *p*=.000), RMSEA =.06, CFI=.81, SRMR=.06, AIC=32194.18, BIC

|                       |        |        |        | · ·    |        |        |      |      |
|-----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|------|
|                       | SD3-J  |        | DTDD-J |        |        |        | 0.D  |      |
|                       | M      | N      | P      | М      | N      | P      | М    | SD   |
| Mach-IV               | .47*** | .08    | .40*** | .43*** | .17*   | .39*** | 4.32 | 0.54 |
| NPI-35                | .24*** | .81*** | .23**  | .37*** | .61*** | .11    | 2.86 | 0.68 |
| Need for attention    | .29*** | .67*** | .22**  | .32*** | .78*** | .07    | 3.30 | 0.89 |
| Grandeur              | .18*   | .75*** | .28*** | .36*** | .46*** | .17*   | 2.44 | 0.83 |
| Leadership            | .13    | .76*** | .14    | .32*** | .43*** | .05    | 2.71 | 0.82 |
| Praise for body       | .06    | .46*** | .19**  | .22**  | .39*** | .09    | 2.18 | 1.02 |
| Self-conviction       | .21**  | .36*** | .03    | .15*   | .08    | .07    | 3.37 | 0.75 |
| LSRP                  | .49*** | .23**  | .54*** | .55*** | .25*** | .46*** | 2.30 | 0.35 |
| Primary psychopathy   | .50*** | .31*** | .55*** | .57*** | .23**  | .42*** | 2.22 | 0.43 |
| Secondary psychopathy | .13    | 10     | .17*   | .13    | .13    | .26*** | 2.50 | 0.44 |
| M                     | 3.53   | 2.27   | 2.43   | 2.83   | 3.07   | 2.72   |      |      |
| SD                    | 0.54   | 0.56   | 0.55   | 0.90   | 0.88   | 0.73   |      |      |

 Table 2
 Correlation coefficients between the brief measures and existing scales of the Dark Triad

Note. M=Machiavellianism; N=Narcissism; P=Psychopathy; Mach-IV=the measure of Machiavellianism in Japanese; NPI-35=the Japanese version of the Narcissistic Personality Inventory; LSRP=the Japanese version of the Levenson Self-Report Psychopathy Scale; SD3-J=the Japanese version of the Short Dark Triad; DTDD-J=the Japanese version of the Dark Triad Dirty Dozen. Bold typeface indicates correlation coefficients between the same traits. n=189.

=32646.80であった。また、3因子間相関モデルと階層因子モデルの適合度をさらに比較検討するために $\chi^2$ 値の差の検定を行った結果、モデル間で有意な差が示された ( $\Delta\chi^2$ =136.45 (24), p<.001)。

#### 信頼性係数と得点の性差

各尺度の記述統計量と $\alpha$ 係数をTable 2に示した $^{2)}$ 。SD3-Jの信頼性係数に関して、マキャベリアニズムの $\alpha$ 係数は.72、自己愛傾向の $\alpha$ 係数は.73、

サイコパシー傾向のα係数は.65を示した。また. SD3-Jの各次元の得点の性差を検討するために、 SD3-Jの各次元の平均値を性別ごとに算出し、t検 定を行った (n=436)。その結果、マキャベリアニ ズム (t=-3.60, p<.001, d=-0.36) とサイコパ シー傾向 (t=-4.10, p<.001, d=-0.41) におい て、有意に男性の方が女性よりも得点が高いこと が示された。また、DTDD-Jでもマキャベリアニ ズム (t=-2.70, p<.01, d=-0.30) とサイコパ シー傾向 (t=-2.76, p<.01, d=-0.29) におい て、有意に男性の方が女性よりも得点が高いこと が示された (n=357)。既存の尺度では、自己愛 傾向 (t=-2.68, p<.01, d=-0.39) とサイコパ シー傾向 (t=-3.39, p<.001, d=-0.50) におい て、有意に男性の方が女性よりも得点が高いこと が示された (n=189)。既存の尺度の下位尺度の性 差を検討した結果、NPI-35は誇大感 (t=-0.42, p < .001, d = -0.52) と自己確信 (t = -0.36, p < .001,d=-0.50) において、LSRPは一次性サイコパ シー (t=-0.23, p<.000, d=-0.56) において, 有意に男性の方が女性よりも得点が高いことが示

<sup>\*\*\*</sup> *p*<.001, \*\* *p*<.01, \* *p*<.05

|                       | SD3-J  |        |        | DTDD-J |        |        |  |
|-----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
|                       | M      | N      | P      | M      | N      | P      |  |
| Mach-IV               | .31*** | 02     | .29*** | .23**  | .15*   | .27*** |  |
| NPI-35                | .04    | .72*** | .21**  | .30*** | .32*** | .02    |  |
| Need for Attention    | .14    | .45*** | .22**  | .21**  | .65*** | 03     |  |
| Grandeur              | 02     | .67*** | .24**  | .31*** | .06    | .06    |  |
| Leadership            | 06     | .70*** | .13    | .30*** | .00    | .00    |  |
| Praise for body       | 07     | .32*** | .16*   | .22**  | .18*   | .02    |  |
| Self-conviction       | .15*   | .39*** | .00    | .04    | 16*    | .07    |  |
| LSRP                  | .26*** | .12    | .43*** | .38*** | .14    | .31*** |  |
| Primary psychopathy   | .27*** | .22**  | .45*** | .41*** | .07    | .25*** |  |
| Secondary psychopathy | .07    | 21**   | .08    | .07    | .23**  | .21**  |  |

Table 3 Partial Correlation Coefficients between the Brief Measures and Existing Scales of the Dark Triad Controlling for a Counterpart Trait of the SD3-J or the DTDD-J

Note. M=Machiavellianism; N=Narcissism; P=Psychopathy; Mach-IV=the measure of Machiavellianism in Japanese; NPI-35=the Japanese version of the Narcissistic Personality Inventory; LSRP=the Japanese version of the Levenson Self-Report Psychopathy Scale; SD3-J=the Japanese version of the Short Dark Triad; DTDD-J=the Japanese version of the Dark Triad Dirty Dozen. Bold typeface indicates partial correlation coefficients between the same traits. n=189.

された。

#### 単相関分析・偏相関分析

SD3-J, DTDD-Jと既存の尺度との単相関係数を Table 2 に示した。また,DTDD-J (SD3-J) の各尺度を統制した時のSD3-J (DTDD-J) と対応する既存の尺度との偏相関係数を Table 3 に示した。例えば,SD3-Jの自己愛傾向と NPI-35 との偏相関係数を算出する場合,DTDD-Jの自己愛傾向を統制することで算出した。なお,SD3-Jの尺度間相関はマキャベリアニズムー自己愛傾向間で r=.10~(p<.05),マキャベリアニズムーサイコパシー傾向間で r=.32~(p<.001),自己愛傾向ーサイコパシー傾向間で r=.29~(p<.001) であった $^{3}$ 。

# 考 察

本研究の目的は日本語版Short Dark Triad (SD3-J)を作成し、その信頼性と妥当性を検討す

ることであった。確認的因子分析によってSD3-Jの階層因子構造が確認され、α係数を算出することによってその信頼性が確認された。また、妥当性の検討にはDark Triadを測定する既存の尺度及びDTDD-Jを用い、相関・偏相関分析の結果から、SD3-Jの併存的妥当性、弁別的妥当性、増分妥当性が確認された。さらに、性差に関しても検討を行い、男性の方が女性よりもSD3-Jの得点が高くなることが部分的に確認された。

#### SD3-Jの因子構造・信頼性

SD3-Jの因子構造を検討するために確認的因子分析を行った結果、AIC・BICの値から1因子モデルよりも3因子間相関モデル、階層因子モデルの方が望ましいモデルであることが示唆された。また、3因子間相関モデルと階層因子モデルの $\chi^2$ 値の差の検定を行った結果、階層因子モデルの $\chi^2$ 値の方が有意に小さいことが示され、予想どおり階層因子モデルの方が望ましいモデルであることが示された。このことは、Dark Triadには互いに共通する基盤とそれぞれに異なる特徴があることを示すものである。その一方で、階層因子モデルの適合度指標を確認すると、CFI は.81 と低い

<sup>\*\*\*</sup> *p*<.001, \*\* *p*<.01, \* *p*<.05

<sup>3)</sup> SD3-JとDTDD-Jの対応する尺度間の相関係数はマキャベリアニズムでr=.51 (p<.001),自己愛傾向でr=.50 (p<.001),サイコパシー傾向でr=.41 (p<.001) であり,対応しない尺度間の相関係数はr=.05からr=.57であった。

値を示した。ただし、RMSEAとSRMRは許容範囲の値を示したことから、総合的にみて階層因子モデルの適合度は許容範囲であると考えられる。また、因子負荷量に注目するとマキャベリアニズムの項目9やサイコパシー傾向の項目1,3,4,5,6,7,8,9は、各グループ因子に対して著しく低い負荷量を示した。SD3-Jの妥当性の考察において後述されるように、SD3-Jのマキャベリアニズムやサイコパシー傾向は、それぞれの独自の特徴を十分に捉えきれていない可能性がある。

SD3-Jの信頼性を確認するためにSD3-Jの各次 元のα係数を算出した結果. マキャベリアニズ ム. 自己愛傾向は Jones & Paulhus (2014) の結果 とほとんど同等の値を示した。いずれのα係数 (.72, .73) も高い値とは言いがたいが、複雑な概 念を9項目で測定するという観点からは妥当な値 であるといえる。項目数が多くなったにもかかわ らずDTDD-Jよりもα係数が低くなった点は. DTDDが同質性の高い項目群で構成されている ために、比較的DTDD-Jの $\alpha$ 係数が高くなった ことが反映されたと考えられる。例えばDTDD のマキャベリアニズムを表す項目1と項目4はほ とんど同一の項目である (Maples et al., 2014)。 また, サイコパシー傾向のα係数は.65であり, 先行研究 (Jones & Paulhus, 2014; Study 1:  $\alpha$ =.72, Study 2:  $\alpha$ =.73) に比べて低い値を示した。ただ し、 先行研究の中には本研究と同程度のα係数を 報告するものもあり (Pailing, Boon, & Egan, 2014;  $\alpha$ =.67), SD3-Jのサイコパシー傾向の信頼性につ いては再検査信頼性を含め、さらなる検討が望ま れる。

#### SD3-Jの妥当性

マキャベリアニズム SD3-Jのマキャベリアニズムは原版と同様に男性の方が女性よりも得点が高いことが示され、Mach-IVとの間に有意な正の相関及び正の偏相関を示した。以上の結果からSD3-Jのマキャベリアニズムが原版と同方向の概念を測定していることが確認された。ただし、

Mach-IVとの相関係数が比較的低い値を示した 点やLSRPとの相関係数が比較的高い値を示した 点は、原版の結果と整合性のない結果であった。 SD3-Jのマキャベリアニズムはサイコパシー傾向 と重複するマキャベリアニズムの特徴は測定でき ているものの、原版に比べてマキャベリアニズム の独自の特徴の部分が十分に測定しきれていない 可能性が考えられる。また、マキャベリアニズム の概念を、日本人を対象に測定することが難しい ということも考えられる。

自己愛傾向 SD3-Jの自己愛傾向は原版と同様にNPI-35との間に比較的高い正の相関及び正の偏相関を示し、LSRP, Mach-IVとの間に比較的低い正の相関を示した。これらの結果からSD3-Jの自己愛傾向が原版と同等の妥当性を有することが示された。ただし、自己愛傾向においては性差が確認されなかった点は、原版と異なる結果となった。この点について、NPI-35において性差が確認されたのは誇大感と自己確信のみであり、SD3-Jの自己愛傾向は自己確信との間に比較的低い相関係数を示していた。したがって原版と比較して、SD3-Jの自己愛傾向は自己確信の特徴を捉えきれていない可能性が考えられ、そのことが性差の結果に反映されたと考えられる。

なお、SD3-Jの自己愛傾向を統制してもDTDD-Jの自己愛傾向は注目欲求と高い偏相関を示した。この点に関して、周囲から注目されたいという欲求は過敏型自己愛の重要な特徴のひとつであり(小塩、2002)、前述したようにDTDDは過敏型の自己愛傾向も測定しているという問題点がある。DTDD-JがDTDDの問題点を引き継いだことにより、自己愛傾向と注目欲求の偏相関がSD3-Jの自己愛傾向を統制しても高い値を示したと考えられる。

サイコパシー傾向 SD3-Jのサイコパシー傾向 は原版と同様に男性の方が女性よりも得点が高い ことが示され、LSRPとの間に有意な正の相関お よび正の偏相関が示された。また、Mach-IVや NPI-35との間にLSRPとの相関よりも低い相関を示した。以上の結果から、SD3-Jのサイコパシー傾向が原版と同方向の概念を測定していることが示された。その一方で、LSRPとの相関係数が比較的低い点や、二次性サイコパシーとの間に有意な偏相関を示さなかった点は原版の結果と整合性のない結果であった。ただし、原尺度であるSD3とLSRPとの関連は未だ確かめられていないことや、LSRPの二次性サイコパシーには信頼性・妥当性の面で問題点があること(大隅他、2007)を考慮すると、SD3-Jと二次性サイコパシーとの関連に関しては衝動性や反社会的行動を別に測定することで再検討がなされることが望まれる。

#### 本研究の結論と今後の展望

本研究の結果から、SD3-Jが国内におけるDark Triad尺度として使用に耐えうる尺度であること が明らかとなった。ただし、それと同時にいくつ かの問題点が示されたため、その点に関しては再 検討が必要である。また、本研究においてSD3-J がDTDD-Jよりも妥当性の高い尺度であることが 示されたが、原版の尺度であるSD3とDTDDに 関して、Dark Triadの3特性の総合得点を算出す る場合にはどちらも外的変数との関連において同 様の結果を示すことが示されている(Lee et al., 2013)。すなわち、Dark Triad を総合した概念を 用いて検討する際には、SD3よりもDTDDを用 いたほうが項目数の観点から効率的であることが 示唆される。このような結果がSD3-JやDTDD-J でも生じるのかどうかに関しても、今後の検討が 必要である。

SD3-JはDark Triadを簡便に測定する尺度であり、今後においてはDark Triadをまとめて扱う研究において使用されることが望まれる。例えば、Dark Triadの共通性・相違点について検討することや、インターネットにおける反社会的行動、いじめ行動、教育場面におけるカンニングなどの様々な反社会的行動への予測に用いたり、その行動に至るメカニズムを検討したりするうえで有用

である。また、本研究では大学生を対象に検討を 行ったが、原尺度を使用した研究では青年から老 年までを対象とした検討がなされているものもあ る(年齢範囲18-83歳; Egan, Hughes, & Palmer, 2015)。SD3-Jが大学生以外の青年や成人にも応 用可能な尺度であるかどうかに関して、今後検討 していく必要があるであろう。

#### 引用文献

- Book, A., Visser, B. A., & Volk, A. A. (2015). Unpacking "evil": Claiming the core of the Dark Triad. *Personality* and *Individual Differences*, 73, 29–38.
- Christie, R., & Geis, F. L. (1970). Studies in machiavellianism. New York: Academic Press Inc.
- Egan, V., Hughes, N., & Palmer, E. J. (2015). Moral disengagement, the Dark Triad, and unethical consumer attitudes. *Personality and Individual Differences*, 76, 123–128.
- Furnham, A., Richards, S. C, & Paulhus, D. L. (2013).
  The Dark Triad of personality: A 10-year review.
  Social and Personality Compass, 7, 199–216.
- Jonason, P. K., Li, N. P., & Czarna, A. Z. (2013). Quick and dirty: Some psychosocial costs associated with the Dark Triad in three countries. *Evolutionary Psychology*, 11, 172–185.
- Jonason, P. K., Li, N. P., Webster, G. D., & Schmitt, D. P. (2009). The Dark Triad: Facilitating a short-term mating strategy in men. European Journal of Personality, 23, 5–18.
- Jonason, P. K., & Webster, G. D. (2010). The Dirty Dozen: A concise measure of the Dark Triad. Psychological Assessment, 22, 420–432.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2010). Different provocations trigger aggression in narcissists and psychopaths. Social Psychological and Personality Science, 1, 12–18.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2011a). The role of impulsivity in the Dark Triad of personality. Personality and Individual Differences, 51, 679–682.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2011b). Differentiating the Dark Triad within the interpersonal circumplex. In L. M. Horowitz & S. Strack (Eds.), Handbook of interpersonal psychology: Theory, research, assessment, and therapeutic interventions (pp. 249–267). New

- York: Wilev.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2014). Introducing the Short Dark Triad (SD3): A brief measure of dark personality traits. Assessment, 21, 28–41.
- Kiehl, K. A., & Hoffman, M. B. (2011). The criminal psychopath: History, neuroscience, treatment, and economics. *Jurimetrics*, 51, 355–397.
- 小西瑞穂・大川匡子・橋本 宰 (2006). 自己愛人格傾向尺度 (NPI-35) の作成の試み パーソナリティ研究. 14,214-226.
- Lee, K., Ashton, M. C., Wiltshire, J., Bourdage, J. S., Visser, B. A., & Gallucci, A. (2013). Sex, power, and money: Prediction from the Dark Triad and Honesty– Humility. *European Journal of Personality*, 27, 169–184.
- Levenson, M. R., Kiehl, K. A., & Fitzpatrick, C. M. (1995). Assessing psychopathic attributes in noninstitutionalized population. *Journal of Personality* and Social Psychology, 68, 151–158.
- Maples, J. L., Lamkin, J., & Miller, J. D. (2014). A test of two brief measures of the Dark Triad: The Dirty Dozen and Short Dark Triad. *Psychological Assessment*, 26, 326–331.
- Miller, J. D., Few, L. R., Seibert, L. A., Watts, A., Zeichner, A., & Lynam, D. R. (2012). An examination of the Dirty Dozen measure of psychopathy: A cautionary tale about the costs of brief measures. *Psychological Assessment*, 24, 1048–1053.
- 中村敏健・平石 界・小田 亮・齋藤慈子・坂口菊恵・ 五百部裕・清成透子・武田美亜・長谷川寿一 (2012). マキャベリアニズム尺度日本語版の作成とその信頼 性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 20, 233-235.
- O'Boyle E. H., Jr., Forsyth, D. R., Banks, G. C., & McDaniel, M. A. (2012). A meta-analysis of the Dark Triad and work behavior: A social exchange perspective. *Journal of Applied Psychology*, 97,

557-579.

- 小塩真司 (2002). 自己愛傾向によって青年を分類する 試み――対人関係と適応, 友人によるイメージ評定 からみた特徴―― 教育心理学研究, 50, 261-270.
- 大隅尚広・金山範明・杉浦義典・大平英樹(2007)日本 語版一次性・二次性サイコパシー尺度の信頼性と妥 当性の検討 パーソナリティ研究. 16,117-120.
- Pailing, A., Boon, J., & Egan, V. (2014). Personality, the Dark Triad and violence. Personality and Individual Differences, 67, 81–86.
- Paulhus, D. L. (2014). Toward a taxonomy of dark personalities. Current Directions in Psychological Science, 23, 421–426.
- Paulhus, D. L., & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, 36, 556–563.
- Raskin, R. N., & Hall, C. S. (1979). A narcissistic personality inventory. *Psychological Reports*, 45, 590–590.
- Raskin, R., & Terry, H. (1988). A principal-components analysis of the Narcissistic Personality Inventory and further evidence of its construct validity. *Journal of Personality and Social Psychology*, 54, 890–902.
- Rauthmann, J. F. (2013). Investigating the MACH-IV with item response theory and proposing the Trimmed MACH\*. *Journal of Personality Assessment*, 95, 388–397.
- 杉浦義典・佐藤 徳 (2005). 日本語版 Primary and Secondary Psychopathy Scale の妥当性 日本心理学 会第69回大会発表論文集, 407.
- 田村紋女・小塩真司・田中圭介・増井啓太・ジョナソン ピーター カール (2015). 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 24, 26-37.

-- 2016.3.20 受稿, 2016.9.10 受理--

# Development and Validation of the Japanese Version of the Short Dark Triad (SD3-J)

# Tadahiro Shimotsukasa<sup>1</sup> and Atsushi Oshio<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Graduate School of Letters, Arts and Sciences, Waseda University
<sup>2</sup> Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

The Japanese Journal of Personality 2017, Vol. 26 No. 1, 12-22

Machiavellianism, narcissism, and psychopathy are collectively called "Dark Triad" because of they are socially aversive traits. The Dark Triad Dirty Dozen (DTDD) and the Short Dark Triad (SD3) were developed as brief measures of the Dark Triad outside Japan. While the DTDD has recently been translated into Japanese, the SD3 has not yet been translated. The purpose of this study was to develop the Japanese version of the SD3 (SD3-J) and to examine its reliability and validity. Confirmatory factor analysis revealed that the SD3-J had a bi-factor structure. Alpha coefficients for each dimension of the SD3-J showed sufficient levels. Correlation analyses and partial correlation analyses between the SD3-J and existing scales of each Dark Triad trait confirmed the concurrent, discriminant, and incremental validity of the SD3-J. Thus, the SD3-J was confirmed as a useful measure of the Dark Triad in Japan.

Key words: Dark Triad, Machiavellianism, narcissism, psychopathy, Short Dark Triad

**Appendix 1.** The Japanese Version of the Short Dark Triad (SD3-J)

| マキャベリアニズム   | 自己愛傾向                              | サイコパシー傾向                               |
|---|------------------------------------|--|
| 1.他の誰かに自分の秘密を教えないという<br>ことは賢明なことだ                 | 1. 周りの人は私を生まれながらのリーダー<br>だと思っている   | 1. 私は目上の人に仕返しや報復をしたいと思うことがある           |
| 2. 自分の思い通りになるように、賢く周り<br>の人々を扱いたい                 | 2. 私は注目の的になることが嫌いだ(*)              | 2. 私は物騒な状況に飛び込むようなことは<br>しない (*)       |
| 3. とにかく、重要な人物は自分の味方に付けておいたほうが良い                   | 3. 私なしではグループの多くの活動が滞っ<br>てしまう      | 3. 報復は、即座に、冷酷に行うものだ                    |
| 4. 将来その人が自分の役に立つかもしれないので、人との直接の争いは避けるようにしている      | 4. 周りの人がそう言っているので私は特別<br>な人間なのだと思う | 4. 私は他人からよく手に負えないと言われる                 |
| 5. 後になって誰かに対して利用できるよう<br>な情報に目を配っておくことは賢明なこ<br>とだ | 5. 私は地位の高い重要な人物と親しくなるのを好んでいる       | 5. 私は他人につらく当たっても平気だとい<br>うのが実際のところだ    |
| 6. 誰かに復讐するなら、それに最適な時が<br>来るまでじっと待つべきだ             | 6. 私は褒められると恥ずかしくなってしま<br>う (*)     | 6. 私をからかう者はいつまでもその行為を<br>後悔することになる     |
| 7. 自分の良い評判を守るために、他の人に<br>秘密にしなければならないことがある        | 7. 私はこれまでに著名な人物にたとえられ<br>たことがある    | 7. 私は人に迷惑をかけるような問題を起こ<br>していない (*)     |
| 8. 自分の計画が、他の誰かの利益ではなく<br>自分の利益になるように取り計らってい<br>る  | 8. 私は平均的でたいしたことのない人間だ<br>(*)       | 8. 私は後先考えずに、ほとんど知らない異性と関係を持つのを楽しむことがある |
| 9. ほとんどの人々は簡単に踊らされたり、<br>操られたりしてしまうものだ            | 9. 私は自分が受けるに値する尊敬を集めるべき人間だ         | 9. 私は誰に何を言ってでも、欲しいものを<br>手に入れる         |

注. \*は逆転項目を表す。